

2012年度

市立

いちかわ

自然博物館だより

6-7月号

(通巻 140号)

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！

いきもの
写真館



撮影：土居幸雄さん

ヒメクロオトシブミ
オトシブミ類の「ゆりかご」づくりは、
匠の技です。中央の主脈を残して切れ
込みを入れ、それから巻き始めます。

P 1 ☀️ いきもの写真館
ヒメクロオトシブミ

P 2 ☀️ 同じ場所を何度か訪れる
江戸川放水路
3
6月1日

P 4 ☀️ 花屋の花を観察する
ガーベラ

P 5 ☀️ 街かど自然探訪
高谷新町 工場の緑化樹

☀️ くすのきのあるバス通りから
花のかおり

P 6 ☀️ むかしの写真で見る 昭和の風景
高谷新町 埋め立て予定地

P 7 ☀️ わたしの観察ノート
3月～4月ごろの記録

P 8 ☀️ 行事案内



同じ場所を何度か訪れる 江戸川放水路 6月1日

【不気味な6月の青潮】

最初に、本号の発行予定日である6月1日が取材日になったことを、お詫び申し上げます。

曇り空から、やがて青空が広がった好天の日、江戸川放水路は堤防から見る限りは平穏で、青々としたアシ原が生き物の季節の到来を告げていました。ところが、干潟に降りて水ぎわに近づくと様子がヘンです。さぎ波を立てる小さな動きが、目に飛び込んできました。それは、予想通りマハゼの群れでした。マハゼと言っても、この春に生まれた子どもたちです。背びれが露出するくらいの浅さにまで入り込んで、水ぎわのラインにそって延々と、おびただしい数がいました。それらが、近づく人影に驚いては右往左往していたのです。

青潮が発生したようでした。酸素の無い水の塊りが沖に出現し、魚たちが少しでも空気の溶ける浅瀬に集まってきたのです。かつて6月に青潮を見たのは1992年で、その時は出産を控えて浅瀬に集まって

いたアカエイが大量に打ち上げられました。2トン積みトラック2台分です。それにくらべればこの日はまだ初期の段階だったので、死んだ魚介類はほとんど見られませんでした。ただ、青潮が進行すると中型・大型の魚が打ち寄せられるようになります。そうなる前に解消されることを願いました。

一方で、青潮の初期は生き物採集に適したタイミングです。展示用にマハゼやボラの子、イシガレイの子、抱卵中のシラタエビなどを採集しました。博物館の飼育展示や小学校の授業で活用します。



水ぎわに逃げて来た子どものマハゼ

【満開のハマヒルガオ】

江戸川放水路の河口付近、京葉線や湾岸道路の下あたりには、小さな砂浜の環境が見られます。ちょうどこの日は、ハマヒルガオが満開でした。ハマヒルガオは、海岸の砂浜にふつうに群生する海浜植物です。九十九里などではいたるところにあります。江戸川放水路での生育場所は限られています。以前は水ぎわの砂浜にも多く見られましたが、この日は堤防のコンクリートの隙間から伸び出した大きな株が満開でした。



カニの砂団子

街なかに多いコヒルガオにくらべると花が大きく、濃いピンクと白いラインの取り合わせが見事です。色合い的に地味な干潟の風景の中では、際立っていました。潮が引いたばかりの干潟では、コメツキガニやチゴガニがせっせと巣穴を掘っていました。同じ干潟の生き物でも干潟上で活動する種類には青潮の影響は軽微です。干潟という環境の複雑さを目の当たりにした日になりました。



ハマヒルガオと東京湾

花屋の花を観察する

ガーベラ



お花屋さんのガラスケースに年中飾られているガーベラは、キク科の花の特徴がよくわかる素材です。キク科の花は、何百もの小さな花があつまって、ひとつの花の形を作っています。ガーベラの花をじっくり見たり、分解することで、ひとつひとつの花の存在に触れることができます。

ガーベラの花の周囲を飾る「花びら」は、1枚1枚が独立した花です。その内側の「雄しべ」に見える部分も別の花で、雄しべ1本

に見えるものが、それぞれ独立しています。そして、さらに中央部には、小さなたくさんの花がつぼみの状態で開花を待っています。

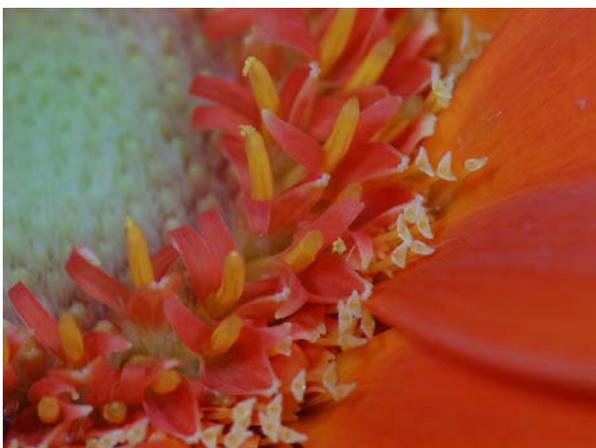
何百もの小さな花をまとめている「がく」は、実際は「総苞」と呼ぶ特別な葉の集まりです。本当の「がく」は小さな花ひとつずつにあり、冠毛と呼ばれる毛になっています。花が終わると冠毛が伸びてきます。タンポポの綿毛に相当するところです。



何百もの小さな花が、ひとつの花のようにふるまう



総苞と呼ばれる特別な葉が、小さな花をひとつに束ねる



筒のようなひとつの花。おしべが付きだしている



「がく」に相当する冠毛が花の根元に密生する



街かど自然探訪

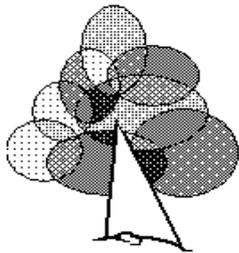
おじゃまします!

高谷新町・工場の緑化樹

高谷新町は、工場街なので気軽に訪れるという場所ではありません。町全部が埋立地なので(6ページ「昭和の風景」参照)、緑が何もない場所に工場緑化の目的で植えられたものです。大きなドングリになるマテバシイや、花が真夏に咲いてきれいなキョウチクトウが多く植えられていました。ハマヒサカキ、トベラなど海辺の街らしい種類もありました。街路樹ではあまり使われないタブノキの並木道では、ちょうど新芽が出ていました。



△工場街の中をまっすぐにのびる、タブノキの並木道



くすのきのあるバス通りから No.82

花のかおり

住宅街を歩くと、垣根にからませてあるバラやジャスミンの香りにホッとします。でも、私はナツミカンやスイカズラの香りの方が好きです。スイカズラが垣根にあるお宅は、あまり園芸品種の花を育てていないような気がします。元の市川学園の道路沿いにマテバシイがあり、花をたくさんつけています。風の向きによって、ほのかにいい香りがします。黄緑色の新しい葉と花でモコモコしている様子で、遠目でもスタジイがあるのが分かります。スタジイの花の香りはあまり



△スイカズラの花

好きではないので、「あ、近くにある」と街中でも気がつきます。草も木も今年は花の数が多いようです。

(M.M.)

むかしの写真でみる

昭和の風景

昭和38（1963）年 撮影

高谷新町 埋め立て予定地



写真提供 岩瀬徹氏

江戸川放水路の河口・左岸側の「高谷新町」造成前の写真です。「出島」のように海に張り出した埋め立て地にはいくつもの工場が立ち並び、写真にある淀川製鋼所はその中央に位置する工場です。

埋め立て前は、干潟から浅瀬へとゆるやかに続く海岸でした。写真は、ちょうど引き潮のときに撮影されたようです。砂地の場所には、ウラジロアカザやウシオハナツメクサなどが生えはじめていました。看板の先にも、まともった陸地が見えます。水たまりにはハゼやカニ、ヤドカリが生息し、砂の中には貝も多かったことでしょう。東京湾では絶滅したハマグリがよく獲れたのも、この一帯だったそうです。

わたしの 観察ノート

◆国府台緑地より

- ・春の花がたくさん見られるようになりました(3/21)。ムラサキハナナ、ヒメオドリコソウ、オオイヌノフグリ、タチツボスミレなど、日射しをあびてきれいでした。
- ・シロバナタンポポが咲いていました(4/3)。

◆真間より

- ・真間山南側斜面林でウグイスが鳴きました(4/4)。台風並みの大風が去って、明るい朝でした。去年に比べだいぶ遅いようです。
- ・商店街でツバメが飛んでいるのを見かけました(4/27)。
- ・真間山下の斜面林で、アゲハチョウが飛んでいました(4/28)。少し動くと汗ばむほどの陽気でした。

◆市川南より

- ・江戸川べりに植えられたカワヅザクラがようやく開き始めました(3/12)。
- 以上 M.T.さん

◆国分より

- ・ツバメが2羽飛んでいるのを確認しました(3/30)。

藤田柳子さん(大和田在住)

◆市川東高校周辺より

- ・市川東高校の上空をツバメ2羽が飛んでいました(3/29)。

K.H.さん

◆坂川旧河口一帯より

- ・新堤防上を歩いていたら、青空を背景に、1羽のツバメが江戸川を横断

して一直線に東方向へ飛び去りました(3/25)。ツバメ初認です。

- ・ビオトープ池の周りの道でエサをとるキジのペアを見ました(4/14)。近づくと、メスはさっさと池の茂みの中へ姿を隠しましたが、オスだけが道に立ちこちらをじっとうかがっていました。もちろん、わたしは回れ右をしました。

◆菅野より

- ・鳴きながら飛び回るコチドリがいました(4/1)。ただ、昨年繁殖に成功した空き地には土がうず高く積まれているので、今年は、一帯どこが安住の地になるのでしょうか。

以上 根本貴久さん(菅野在住)

◆市内某所より

- ・シュンランが1株蕾をつけました(3/12)。他の雑木林でも9株あちこちで春を待っています。いまだ野生のまま生きていることはすごいことです。
- ・咲きはじめました(3/25)。
- ・たった1株だったものが見あたりません(3/25)。
- ・木漏れ日の雑木林にキンランが50数株点在して咲いていました(4/29)。別の所では4株ほどが、さらに離れてギンランが1株咲いていました。ジュウニヒトエも咲いていました。

谷口浩之さん(北国分在住)

いつまでも暖かくならず、ウメ、コブシ、桜の花が同時に見られました。梨の頃になって、ようやく春が追いつきました。



行事案内



おやこ自然観察会

お申し込みが必要な行事です。

昆虫の観察を中心にした、親子で楽しく自然に親しむ観察会です。

- *場所 自然博物館周辺
- *時間 午前中 1時間半～2時間
- *定員 各回とも、先着20名 親子対象です。

タイトル	日にち	受け付け開始日
7月の昆虫	7月15日㊥	6月16日より
8月の昆虫	8月12日㊥	7月21日より

⊕ **お申し込み方法** ⊕
 往復はがきに、
 参加者全員の住所、氏名、年齢、電話番号、
 返信面に返信先を明記の上、
 下記まで、お申し込み下さい。
 〒272-0801 市川市大町 284 番地
 自然博物館 「〇月の昆虫」
 参加希望 とご記入ください

長田谷津 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

毎月1回、長田谷津(大町自然観察園)の四季折々の風景を楽しみます。

- ・日時 7月7日㊥、8月4日㊥、9月1日㊥、 午前10時～11時30分
- ・集合場所 動物園券売所前 午前10時

季節を感じる 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

集合場所など、詳しくは博物館に直接おたずねください。

テーマ	日時	場所
初夏の雑木林	6月17日㊥午前10時～11時30分	堀之内貝塚公園
初秋の江戸川土手	9月16日㊥午前10時～11時30分	里見公園下江戸川土手

名前をしらべる会

お申し込みは不要です。

あなたが作った植物・昆虫・貝・岩石などの標本に、専門の先生が名前をつけます。

- ・日にち 8月26日㊥
- ・受付時間 午前10時～11時30分、午後1時～3時30分
- ・会場 市川自然博物館

長田谷津ボランティア

湿地の環境整備をお手伝いして下さいますか。(雨天中止)

- ・日時 6月24日㊥、7月29日㊥、(8月はお休み) 午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・はじめて参加される方は…湿地の中に入る作業もあります。作業内容や身支度、駐車場などについてご案内いたしますので、ご面倒でもまずは博物館にお電話でお問い合わせください。

野草名札付けの

お手伝いして下さいますか。

(申し込み不要・雨天中止)

- ・日時 7月8日㊥、8月5日㊥、9月2日㊥、
午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・自家用車をご利用の場合は、博物館までお電話でお問い合わせください。

第24巻 第2号 (通巻第140号)
 平成24年6月1日 発行
 編集・発行/市立市川自然博物館
 〒272-0801千葉県市川市大町284番地
 ☎047(339)0477
<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/shisetsu/haku/>